

要旨

1. はじめに

1990年の「出入国管理及び難民認定法」改正以降、日本に暮らす在留外国人は急増し、2018年の同法改正でさらに多様な外国人労働者の受け入れが拡大した。新型コロナウイルス感染症の収束後はさらに外国人の増加が見込まれ、引き続き外国人労働者やその家族の受け入れ体制の整備や、共生社会の実現に向けた取組が社会的課題である。外国につながる子どもは、言語や学習、文化の違い、家庭環境、不就学、医療等に困難を抱えており、福祉や保健における課題への支援が必要である。そのために、親も含めた外国につながる子どもの生活実態を客観的データで把握することの重要性が言及されている。しかし、外国につながる子どもの生活や成長発達という俯瞰的な観点で、課題や社会・地域における要因、それらの経路については明らかにされていない。そこで本研究の目的は、外国につながる子どもの生活や成長発達における課題や影響要因と、それらの構造を明らかにすることとした。

2. 方法

地域の外国人支援団体において、子ども学習支援教室のボランティア5名を対象とし、半構造化インタビュー調査を実施した。分析方法はテーマ分析を用い、生成された4のテーマを“貧困と成長をつなぐ「経路」”モデルに基づいて配置し、各テーマの関連を明らかにした。

3. 結果と考察

テーマ分析の結果、【日本での生活基盤に関する背景】【日本での生活基盤に関する背景から直接的に生じる課題】【日本での生活基盤に関する背景から間接的に生じる課題】【社会や地域における問題悪化要因】の4のテーマが生成され、外国につながる子どもの生活や成長発達における課題と影響要因が明らかになった。

また、各テーマの関連から、《日本と異なる文化》や《親の言語の障壁》を中心とした【日本での生活基盤に関する背景】が【日本での生活基盤に関する背景から直接的に生じる課題】、【日本での生活基盤に関する背景から間接的に生じる課題】へと影響していくことが明らかになった。また、子どもや親を取り巻く【社会や地域における問題悪化要因】に本質的な課題があることが示唆された。

4. 結論

外国につながる子どもの生活や成長発達における課題と影響要因や、それらの構造を明らかにすることで、外国につながる子どもの成長発達を取り巻く複雑な心理社会的要因の一端を系統的に示すことができた。生活や成長発達という側面から、外国につながる子どもの課題を捉え直し提示できたことについては、今後外国につながる子どもや家族の受け入れ体制の発展に寄与できるといえる。

キーワード：外国につながる子ども、生活、成長発達、課題、影響要因